

ゆうきちゃん・夢の花束

文／むなかた りょう
絵／やまうち あつこ

— サンプル版 —



ゆうきちゃん・夢の花束

文／むなかた りょう 絵／やまうち あつこ



【サンプル版の制限事項】

本書はサンプル版のため、次の章を割愛しています。

鼻で楽しむ・匂い

肌で楽しむ・触感

夢の中の夢

書籍版にて、むながたりようの世界をお楽しみください。

プロローグ

目で楽しむ・色

耳で楽しむ・音

鼻で楽しむ・匂い

肌で楽しむ・触感

夢の中の夢

あとがき



あれから何年かたち、ゆうきちゃん
 ちゅうがくせい
 は中学生になりました。

ゆうきちゃんの夢は、さらに広が
 ゆめ
 り、
 だれ
 誰もがびっくりするようなことを考
 かんが
 え

ていたのです。

からだ
 こころ
 体や心で感じ

と
 取ったことを、自
 じ

ぶん
 ことば
 分の言葉で上手に

ひょうげん
 ちから
 表現する力もつき

ました。



ゆうきちゃんが、幼いころから不思議に思っていたことに、空の色があります。

空は青い色か、雲がかかった薄暗いグレーがほとんどです。

ゆうきちゃんの住んでいる北国は、秋の終わりから、春三月の末まで、薄暗い日が多いこともあり、ゆうきちゃんは、こんなふうに夢の翼を羽ばたかせました。



「曜日ようびは月火水げつかすいとあるのだから、必ずはれ晴れてほしい土曜どよう、日曜にちようび日はスカイブルげつようびー、月曜すいようび日はオレンジ色いろ、火曜かようび日は若草色わかくさいろ、水曜すいようび日は淡いピンクあわ、木曜もくようび日は薄紫色うすむらさきいろ、金曜きんようび日はレモン色いろに変わかっていったらいいのに…。

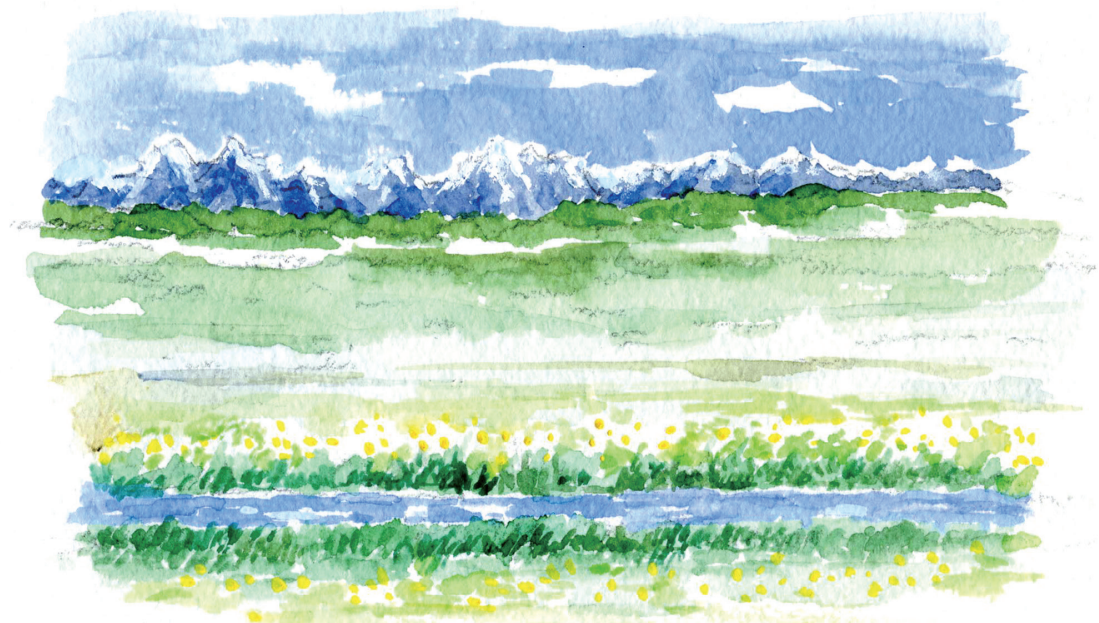
そうしたら、子どももお年寄りもとしより、空そらを見ると何曜日なんようびか、すぐにわかるし、みんな朝起きてあさお、空そらを眺めるながことが、楽したのしみになると思うおもの。

夜よるには、キラキラ光るひか星空ほしぞらから天使てんしさまが降りてきて、『ゆうきちゃん、



あした わかくさいろ
明日は若草色ですよ』と空の色を教え
てくれたら、あした 明日もきつといい日にな
る気がして、あんしんして眠れそう」
ゆうきちゃんと天使さまは、大の仲
良しで、ゆうきちゃんは、心の中でい
つも天使さまとお話しをしているので
す。





自動車じどうしゃのクラクション、宣伝せんでんのアナ
 ウンス、工事現場こうじげんばの機械きかいの音おとなど、街
 の中なかは、いろいろな音おとであふれていま
 す。

家いえの中なかもドアをボタンと閉める音おと、
 誰だれかを叱しかる声こえ、長電話ながでんわ、つけっ放しばなの
 テレビなど、いつも声こえや物音ものおとがします。
 また、学校がっこうでは、授業中じゅぎょうちゆうでもおしゃ
 べりをする人ひとがいます。

ゆうきちゃんは、騒音そつおんやマナーを守まも

らないおしゃべりが苦手です。

ゆうきちゃんが好きなのは、美しく

て優しい音…。

例えば、春、雪が溶けて水となって、

ポタツ、ポタツと落ちる音。朝、窓を

開けたとき、野鳥のさえずりが聞こえ

てきたら、とっても幸せな気分です。

夏であれば、サラサラ流れる小川の

水音が心で洗われます。

晩秋であれば、ヒラヒラ、ハラハラ

と舞い降りた落ち葉が、ほんの少しの

風で動いたときの力サツ、コソツとい



う音。おと

控えめに、何か話しかけてくるよう

な気がします。

冬になると、北国では、シバした日

にだけ聞こえる音があります。それは

雪道を歩くときのキュツ、キュツとい

う音。

ゆうきちゃんは、この音が大好きで、

肌を刺す寒さもなんのその。

速く歩いたり、ゆっくり歩いたりし

て、その音を楽しみます。

「このキュツ、キュツという音を録



音^{おん}して、音楽^{おんがく}に使^{つか}ってはどうかしら」
ゆうきちゃんは、そんなことを夢見^{ゆめみ}
たりもします。

そうそう、オルゴールの音色^{ねいろ}がこと
のほかお気^きに入^いりのゆうきちゃんは、
なんと、自分^{じぶん}で作^{つく}った曲^{きょく}をオルゴール
にして持^もっています。

美^{うつく}しく優^{やさ}しい音色^{ねいろ}でもう一つ、ゆう
きちゃんが大^{だい}好^{すき}きなのは、衣擦^{きぬす}れの音^{おと}。
ゆうきちゃんのお母^{かあ}さんは、よく和^わ
服^{ふく}を着^きていて、お母^{かあ}さん^{ある}が歩^{ある}くとキュ
ッ、キュッと衣擦^{きぬす}れの音^{おと}がするのです。



「キュッ、キュッという音^{おと}が聴^ききた
い！お母^{かあ}さん、もう一回^{いっかいある}歩いて」など
と言^いって、お母^{かあ}さんにおねだりしたこ
ともあります。



第一巻の発行から五年の年月が流れました。

その間、何人かの方から、「大きくなったゆうきちゃんを書いては」との声がありペンを取りました。今度は五感をいかしたゆうきちゃん。目、鼻、耳、手、そしてゆうきちゃんの好きな天使と夢の物語を書いてみました。

この本の刊行にあたり、はまなす文庫の岩山善則氏はじめ、スタッフの方々、さし絵を担当下さいました道展会員の山内敦子先生、フリーライターの大藤紀美枝様には、大変お世話になりました。心から感謝の意を表したいと存じます。

棟方 量子



作者紹介

文／棟方 量子

- 1933 青森市出身
1957 3月東京アナウンスアカデミー卒業
1957 HBC北海道放送入社（アナウンサー 15年勤務）
1971 UHBTV北海道文化放送
（開局よりアナウンサー 10年勤務）
1974 札幌市観光協会より拝命を受け、ミスさっぽろ
の「ことば遣い」の教育に37年間かわり、感謝
状を授与される。
1982 フリーアナウンサーとなり道新文化センターの講師、
22年間つとめながら、話し方に関する講演・社員研
修・司会。
1983 道新文化センターの修了生で誕生した「コミュ
ニケーショングループ れもんの会」を設立。
主宰をつとめ、2015年で32年。
趣味として、緑茶・紅茶のアドバイザー、「煎茶道と
マナー」の香和会主宰。
2010 初出版童話「ゆうきちゃん空を飛ぶ」発刊

受賞

- 1971 「すすき野ワルツ」（唄 神戸一郎・作詞 棟方量子）
ポリドールレコードより発売。
1983 第4回古賀政男記念音楽大賞 作詞一般部門
にて、奨励賞受賞「Funny Sunday」

絵／山内 敦子

- 1944 留萌出身
1965 道展初出品
1966 札幌大谷短大美術科卒業
1977 時計台ギャラリー個展
1981 HBC文化教室講師（2000年3月迄）
1990 古瀬キヨ記念財団
北海道女流選抜展（92、96、98）
1998 道展佳作賞
1994 道展会友
2000 道新文化センター講師（2014年迄）
札幌美術展出品
2001 道展会友賞
2004 道展会員
大丸藤井セントラル個展
2005 さいとうギャラリー企画展
（夏、冬）～2015年
2007 大丸藤井スカイホール個展
2009 いまあじゅ小品展
2012 白樺画廊個展
いまあじゅ小品展
2013 道新ギャラリー個展

ゆうきちゃん・夢の花束

平成27年5月

ぶん／むなかた りょう
え／やまうち あつこ

発行所 自費出版社 はまなす文庫
〒064-0811
札幌市中央区南11条西9丁目3-35
電話(代表)011-551-8900

印刷・製本 北海道印刷企画株式会社

ISBN978-4-901653-54-1
C0700 ¥1300E